

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年12月23日(金)

その3 通算293号

◇ 今年の一文字 来年の一文字

日本漢字能力検定協会は、一年の世相^{せそう}を漢字一文字^{ひともし}で表す「今年の漢字」を選出。清水寺住職の書による発表があった場所は、6年生が修学旅行で清水寺を訪れた際に、ちょうど学級写真を撮影したあたりだ。

清水寺を包む紅葉をまとった立派な木々が、舞台を抜ける柔らかな風に乗ってそよいでいたことを思い出す。

令和4年(2022)の漢字は【戦】。

音読みで「せん」、訓読みだと「いくさ」の【戦】。

そしてもう一つ、送り仮名「ぐ」を付して「戦ぐ」。

「そよぐ」という読みがあることを、この歳になって知る。

「草木などが風に吹かれ、静かな音を立てながら揺れ動く様」を表すのであるが、「戦い」のイメージを強烈に残す【戦】の文字を充てるとは、意外であった。



今年一年の世相という視点から見れば、【戦】が選ばれたことも納得できる。

ロシアによるウクライナへの侵攻により、「戦」争の恐ろしさを目の当たりにした一年だ。そして、一年の締めくくりは、サッカーワールドカップにおける日本代表の熱き「戦-い」。円安と物価高による消費者の生活面での「戦-い」も続いている。

しかし、毎年「今年の漢字」が発表される度に思うのだが、マイナス的イメージを連想させる漢字の方が圧倒的に多い。今年選ばれた【戦】は、特にその傾向が強く、【戦】を含む熟語を並べてみると、一目瞭然である。

◆接頭に【戦】の付く熟語： 戦争・戦場・戦力・戦乱・戦国・戦局・戦禍 …など

◆接尾に【戦】の付く熟語： 合戦・決戦・接戦・停戦・休戦・熱戦・作戦 …など

プラスの意味で用いられる「熱戦」や「作戦」でさえ、「たたかい色」が強い。

そのなかで、唯一と言っていいほどのプラスイメージの熟語がある。【挑戦】だ。

【挑戦】：①戦いや試合をいどむこと。②困難な物事や新しい記録などに立ち向かうこと。

②困難な物事や新しい記録などに立ち向かう 挑戦。

②の意味が素敵なのは、どんな場面でも、どんなことでも 通じる部分。

そして、場面やことを決めるのは自分であるということだ。

今年の2022年からつながる 来年の2023年。
そして2022年の【戦】からつながる2023年。

そこで、令和4年度の2023年の期間。
3月末までの常磐東小学校が目指す漢字一字を【挑】とした。

今日は2学期終業式。児童は明日から、いつもより少し長い冬休みだ。
令和5年の新しい年に【挑む】ことができるよう、そして、3学期に始めからスタートダッシュがかけられるよう、準備の冬休みにしてもらいたいものだ。



【挑んで励み、求めて励む 令和5年に】【求めて励み、挑んで励む 2023年に】